

相手の立場になって対応することが大事



■これまでどのようなお仕事をしてきましたか？

現在は総務課の課長補佐として、広報と企画・法規の業務を担当しています。

私はセンター一筋35年になりますが、35年の間にはいくつかの過渡期がありました。この間、共通一次試験からセンター試験に代わったり、リスニングテストの導入など様々な経験ができました。

今また、センター試験に代えて2020年度から新テスト（大学入学共通テスト（仮称））が導入されますが、過去の経験が少しでも役に立てればとは思っています。

■過渡期にはどのような苦勞がありましたか？

国公立大学のみを対象とした5教科7科目必須の共通一次試験から、私立大学が加わり成績を自由に活用できるセンター試験に代わる際には、長い時間をかけて検討が重ねられた記憶があります。中には検討したものの実現しなかったというものもあります。

ただ、議論は繰り返されるもので、例えばリスニングの導入などは共通一次試験から検討されていたものですが、公平性の観点から一度頓挫しました。その後、技術の進歩などによりようやく実現にこぎ着けたという経緯があります。リスニングは今でこそすっかり定着していますが、導入当

初は非常に大変でした。

それから、過渡期とは多少ずれますが、2度の大震災への対応も、強く記憶に残っています。長い間、苦勞や達成感と共に携わってきたセンター試験がまもなく終わろうとしていると思うと、多少感慨深いものがあります。

■業務でやりがいを感じたことはありますか？

良くも悪くも社会的関心が高いセンター試験の運営を担っているという自負ですかね。

それから、今でもよく覚えているのは、外国の学校を修了した受験生の受験資格について、苦勞して大使館などに確認し、受験資格を証明できた際に受験生からお礼の言葉を頂いた時などは本当に嬉しかったですね。

やっぱりどんなことでも、相手に対して親身に対応すると、いい結果が返ってくるんだなと思います。



■どんな方と一緒に働きたいですか？

センターの業務は受験生をはじめ、大学関係者など、多くの方と関わることとなりますので、相手のことをよく考えて、相手の立場になって対応することが大事なことかなあ、と。

就職は色々とおもしろいことも多いかと思いますが、どんな仕事も大変なことはあるし、逆にやってみたら楽しいこともありますから、あまり考えすぎずに決めてもらえたらいいんじゃないかなと思います。

是非、センターで生涯付き合える仲間を見つけていただければと思います。